

研究者リーダーシップ・プログラム

「第3回 自己理解を深め、他者理解・相互理解につなげる」参加レポート

今回の講師を務めてくださった中島先生の講義では、カール・グスタフ・ユングのタイプ論を手がかりとして、自分自身の認知の傾向を振り返り、他者との違いを理解するための視点を導くことができた。普段、私たちは物事の捉え方や判断の仕方を「自分にとって自然なもの」として受け止めてきている。しかしユングによれば、人には外向・内向、感覚・直観、思考・感情といった複数の次元で異なるタイプがあり、それぞれの組み合わせによって世界の見え方や意思決定の傾向が大きく異なるという。今回の講義を通じて、こうした認知の違いが日常的なコミュニケーションや意思決定のあり方にどのような影響を及ぼしているのかを改めて実感することができた。とりわけ、同じような状況を前にしても、先述したタイプに応じて注目する点や判断の基準が異なること、そしてその違いが時として誤解や対立を生む一因となり得ることを理解できたのは大きな学びであった。

今後は、相手のタイプを推し量りながら、できる限り相手との齟齬が生じないようにコミュニケーションのあり方を意識することが、円滑な関係構築やリーダーシップの実践においても重要であると感じた。例えばリーダーシップを発揮する際には、自分の認知活動のタイプを自覚し、自分とは異なるタイプの人々の視点を積極的に取り入れる柔軟さが求められるかもしれない。自己理解を深めることが、他者理解や相互理解にもつながることを具体的かつ実践的に学べた講義であった。

(左高慎也・名古屋大学ジェンダーダイバーシティセンター 特任助教)